

「JENESYS2.0」

2015 年度中国青年メディア関係者代表団第 1 陣

訪問日程 平成 27 年 7 月 26 日（日）～8 月 2 日（日）

1 プログラム概要

中国国務院新聞弁公室が派遣した 2015 年度中国青年メディア関係者代表団第 1 陣計 92 名が、7 月 26 日から 8 月 2 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。（団長：陳大為（チン・ダイイ）中国国務院新聞弁公室 国際連絡局 副局長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は東京都をはじめ、神奈川県、山口県、徳島県、福岡県を訪問し、分団ごとのテーマである「シニア・シルバー世代（第 1 分団）」、「都市と地方（第 2 分団）」、「環境・省エネ（第 3 分団）」を中心に、関連企業や施設の訪問・視察を行うとともに、日本のメディアへの訪問・交流や、街頭での自由取材、クールジャパンやテーマに関するブリーフ・視察を行いました。また、地方都市や歴史的建造物などの参観、温泉体験など、さまざまなプログラムを通じて包括的な対日理解を深めました。

2 日程

7 月 26 日（日）成田・羽田空港より入国

7 月 27 日（月）第 1 分団：朝日新聞社訪問・交流、(株)立花屋訪問・交流

第 2 分団：日本テレビ訪問・交流、浅草・東京タワー見学

第 3 分団：TBS テレビ訪問・交流、浅草・東京タワー見学

共通：歓迎会

7 月 28 日（火）第 1 分団：杉並区シルバー人材センター訪問・交流、東京タワー見学

第 2 分団：警視庁交通管制センター視察、皇居・二重橋、印刷博物館見学

第 3 分団：(株)ユーズ TOKYO 油田 2017 訪問・交流、TEPIA 先端技術館見学

共通：クールジャパンに関する自由取材

7 月 29 日（水）第 1 分団：皇居・二重橋・浅草見学、山口県へ移動

第 2 分団：横浜市による講義、東京ガス横浜ショールーム視察、
香川県へ移動

第 3 分団：福岡県へ移動、西日本新聞社訪問・交流

7 月 30 日（木）第 1 分団：NHK 山口放送局訪問・交流、山口県庁による講義、瑠璃光寺見学

第 2 分団：徳島県へ移動、徳島県庁による講義、徳島新聞社訪問・交流、
阿波踊り会館・眉山見学

第 3 分団：太宰府天満宮・九州国立博物館見学、シャボン玉石けん(株)視察、
小倉城・門司港レトロ地区見学

7月31日（金）第1分団：特別養護老人ホーム「小郡・山手一番館」訪問・交流、秋芳洞・秋吉台カルスト展望台見学

第2分団：鳴門渦潮見学、NPO法人グリーンバレー・神山町訪問・視察

第3分団：北九州副市長表敬、北九州市講義、東田スマートコミュニティ・北九州エコタウン視察、北九州市環境ミュージアム見学

8月1日（土）東京都へ移動、商業施設視察、歓送報告会

8月2日（日）成田・羽田空港から帰国

3 写真

<共通>

	
7月27日 歓迎会 江田五月公益財団法人 日中友好会館会長の挨拶（東京都）	7月28日 巣鴨でクールジャパンに関する 自由取材（東京都）
7月27日 在欢迎会上公益財団法人日中 友好会館江田五月会长致辞（东京都）	7月28日 在巣鴨地区“酷日本”主题街头 自由采访（东京都）
	
7月28日 渋谷でクールジャパンに関する 自由取材（東京都）	8月1日 歓送報告会で自由取材の成果を発表 （東京都）
7月28日 在涩谷地区“酷日本”主题街 头自由采访（东京都）	8月1日 在欢送会上发表街头采访的成果 （东京都）

<第1分団>



7月27日朝日新聞社訪問・交流（東京都）

7月27日 访问朝日新闻社进行交流
（东京都）



7月27日（株）立花屋訪問・交流
（神奈川県）

7月27日 访问株式会社立花屋进行交流
（神奈川县）



7月28日 杉並区シルバー人材センター
訪問・交流（東京都）

7月28日 访问东京都杉并区老年人才
中心进行交流（东京都）



7月28日 東京タワー見学（東京都）

7月28日 参观东京塔（东京都）



7月29日 浅草見学（東京都）

7月29日 参观浅草（东京都）



7月29日 皇居・二重橋見学（東京都）

7月29日 参观皇居・二重桥（东京都）

	
7月30日 NHK 山口放送局訪問・交流 (山口県)	7月30日 山口県庁による講義 (山口県)
7月30日 訪問 NHK 山口电视台进行交流 (山口県)	7月30日 由山口县政府讲座 (山口県)
	
7月30日 瑠璃光寺見学 (山口県)	7月31日 特別養護老人ホーム「小郡・山手一番館」訪問・交流 (山口県)
7月30日 参观琉璃光寺 (山口県)	7月31日 访问特别护理老年公寓“小郡・山手一番馆” 进行交流 (山口県)
	
7月31日 秋吉台カルスト展望台見学 (山口県)	7月31日 秋芳洞見学 (山口県)
7月31日 参观秋吉台卡斯特展望台 (山口県)	7月31日 参观秋芳洞 (山口県)

<第2分団>



7月27日 日本テレビ訪問・交流（東京都）



7月28日警視庁交通管制センター視察(東京都)

7月27日访问日本电视台进行交流(东京都)

7月28日 考察警视厅交通管理中心(东京都)



7月28日 印刷博物館見学（東京都）



7月29日 横浜市による講義（神奈川県）

7月28日 参观印刷博物馆（东京都）

7月29日 由横浜市政府的讲座(神奈川県)



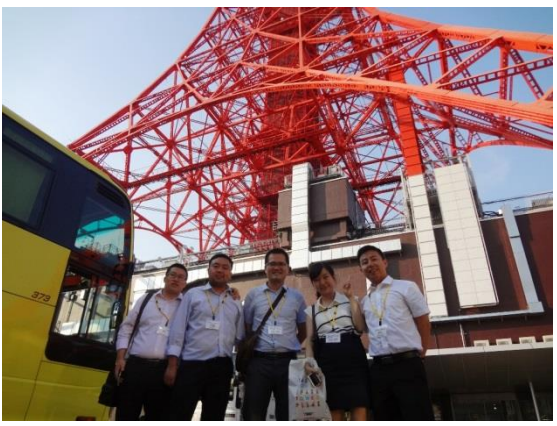
7月29日 東京ガス横浜ショールーム
視察（神奈川県）



7月30日 徳島県庁による講義（徳島県）

7月29日 参观东京煤气公司横滨展馆
（神奈川県）

7月30日 由德岛县政府的讲座（德岛县）

	
7月30日 徳島新聞社訪問・交流(徳島県)	7月30日 阿波踊り会館見学(徳島県)
7月30日 访问徳島新闻社进行交流 (徳島县)	7月30日 参观阿波舞会馆(徳島县)
	
7月31日 鳴門渦潮見学(徳島県)	7月31日 NPO 法人グリーンバレー、 神山町訪問・視察(徳島県)
7月31日 参观鸣门涡潮(徳島县)	7月31日 访问 NPO 法人绿色山谷及神山町 (徳島县)
<第3分団>	
	
7月27日 TBS テレビ訪問・交流(東京都)	7月27日 東京タワー見学(東京都)
7月27日 访问 TBS 电视台进行交流 (東京都)	7月27日 参观东京塔(東京都)

	
7月28日 (株)ユーズ TOKYO 油田 2017 訪問・交流 (東京都)	7月28日 TEPIA 先端技術館見学(東京都)
7月28日 访问株式会社U'S TOKYO 油田 2017 相关考察 (東京都)	7月28日 参观 TEPIA 尖端技术馆 (東京都)
	
7月29日 西日本新聞社訪問・交流 (福岡県)	7月30日 太宰府天満宮見学 (福岡県)
7月29日 访问西日本新闻社进行交流 (福岡县)	7月30日 参观太宰府天满宫 (福岡县)
	
7月30日 九州国立博物館見学 (福岡県)	7月30日 シャボン玉石けん(株)視察 (福岡県)
7月30日 参观九州国立博物馆 (福岡县)	7月30日 参观无添加泡泡肥皂工厂 (福岡县)

	
7月30日 小倉城見学（福岡県）	7月31日 日門司港レトロ地区見学（福岡県）
7月30日 参观小仓城（福岡县）	7月31日 参观门司港怀旧地区（福岡县）
	
7月31日 北九州副市長表敬（福岡県）	7月31日 北九州市講義（福岡県）
7月31日 拜访北九州副市长（福岡县）	7月31日 北九州市讲座（福岡县）
	
7月31日 北九州エコタウン視察（福岡県）	7月31日 北九州エコタウン視察（福岡県）
7月31日 考察北九州环保城（福岡县）	7月31日 考察北九州环保城（福岡县）

	
7月31日東田スマートコミュニティ視察 (福岡県)	7月31日北九州市環境ミュージアム見学 (福岡県)
7月31日 考察東田智慧社区(福岡県)	7月31日 参观北九州市环境博物馆 (福岡県)

4 参加者の感想（抜粋）

【第1分団】

○ 世界各国の従来メディアがニューメディアの挑戦に立ち向かっている現在、日本の新聞業界は依然として相当の発行部数を維持し、発展を遂げている。その原因として小中学生の時期から新聞を読む習慣を養っていることが挙げられ、大いに啓発された。

どの国でも新聞業界が苦戦している中、日本では揺るぎない地位を保っていた。しかし常に危機意識を忘れず、ニューメディアとの融合を試みていた。百年の歴史をもつ朝日新聞社も、デジタル化を取り入れた新しいシステムの構築を進めていた。

また、日本は高齢化社会に向けても完璧な体制を整えており、高齢者が社会に参画し、自身の価値を見出していた。同時に医療や介護の面でも我々が学ぶべき多くの貴重な経験を積み上げていた。

○ 訪日するまで、日本の高齢化に関して特別な知識はなかったが、立花屋の訪問を通し、日本の高齢化が相当進んでいるのを知った。しかし、日本の高齢者の方々はとても元気だった。また、国家に迷惑をかけてはいけないと60歳、70歳になっても意欲的に仕事に励み、かくしゃくとしていた。これには驚くとともに、深い感銘を受けた。いつの間にか自分が老いることに恐怖を感じなくなり、自身の老後に希望さえ見出した。

記者のキャリアも13年となり、高齢者をテーマにした取材も手掛けてきた。しかし特別老人ホームの訪問を通して、こんなにも至れり尽くせりのホームがあるのかと感動した。中国も高齢化に向かっている。メディアに携わる者として、日本での情報を祖国に伝え、今後の高齢化の一助になりたい。

○ メディアに携わる者として、朝日新聞社の仕事場では、各部門に間仕切りを設けないレイアウトが印象的だった。これはニュースをリアルタイムに完璧に伝えるのに大変有効だと思った。そして、NHK山口放送局は立地面積が広くないものの、実用的な設備機材を完備し、質の高いニュースを多数制作していた。ここでも空間の有効利用について学んだ。

また、スタジオのアナウンス台では気象庁からの緊急通報を即座にキャッチできる仕組みになっており、非常に興味を持った。私は中国でも地質災害が頻発する地域出身なので、突発災害が発生した際の報道について、日本から学ぶべきところが多かった。そして NHK 放送センターでは不定期に夜間緊急演習をしているようだ。

テーマ別視察では高齢化事業に関連する施設を訪問した。東京都杉並区シルバー人材センターでの視察では、高齢者の皆さんの手作り品のショップを訪問し、幾つか心のこもった製品を購入した。また 7 月 31 日は特別養護老人ホーム「小郡・山手一番館」を訪問し、日本の公益社団法人の老人介護分野での成果を見せてもらった。ご老人の皆さんとフラワーアレンジメントを行うプログラムに参加し、元華道講師だった 93 歳のお婆さんと活動を共にした。お婆さんの指導のもと完成させた作品をお別れの時に差し上げ、通訳を通してお婆さんの健康と長寿を祈念する気持ちを伝えた。お婆さんは涙を流してくれた。高齢者の介護には、身体的な介護はもちろんのこと、心の介護が欠かせないと身を以って知った。私はお婆さんと記念写真を撮ってお別れした。今回の訪日活動で親しく触れ合った皆さんを通し、日本のイメージがはっきり浮かび上がってきた。また機会があったら、是非日本の更なる側面を覗いてみたいと切望する。

○ 日本の皆さんの謙虚で仕事熱心なところ、おもてなしの心、きめ細かい思いやり、徹底した仕事ぶりには敬服する。時間を順守し、細かい点にも注意を怠らない皆さんのおかげで、行程は非常にスムーズに、内容豊富で、気持ちよく過ごすことができた。(株)立花屋を訪問した際、日本における終身雇用制度、社員の会社に対する帰属感の強さを学んだ。また一つの事業を成し遂げることに誇りを持ち、自身の満足感に繋がっているのは非常に見習うところだ。社会の事業を発展、進歩させるには、各個人が自分の仕事に真摯に取り組むことが大事だと感じた。また、食品の衛生管理の高さには驚いた。今回の旅程では、日々豊富な料理が用意され、肉や魚など腐り易い食品も少なくなかった。中には生ものも多く、通常なら胃腸を悪くしたり、下痢をしたりする。しかし、日本では安心して生もの、冷たい食品を食べることができ、体調に支障をきたすようなことは無かった。それから買い物時には日本製品の精巧で美しいことに驚嘆し、人に優しいデザインに、購買欲は更に掻き立てられた。大きなモールも小さいショップでも、店員さんの対応は丁寧で、買物客は心地よく時を過ごすことができる。言葉の問題からコミュニケーションが取れないこともあったが、嫌な気持ちには陥らなかった。

【第 2 分団】

○ 今回の日本訪問は発見、交流、模索の旅だった。最も印象深いことは街中の「二つの少ないもの」だ。一つは街で交通警察官の姿を見ることが本当に少なかった。中国では都市の大小に関わらず、朝昼晩の交通量が多い時間帯には、警察官が交通整理を行う。しかし日本での 7 日間、交差点に立つ警官の姿を一度も見なかったが、秩序は守られ、事故や渋滞にほとんど遭遇しなかった。警視庁交通管制センターの見学を通し、東京では早期から IT 化とスマート化が取り入れられ、警察官による交通整理に取って代わられていた。同時に狭い道でも運転手や通行者が自主的に交通規則を守り、秩序が保たれていた。もう一つはゴミ箱が少なかったことだ。街頭はもちろん、観光地のトイレ、ホテル、レストラン

にもゴミ箱が非常に少なかった。そこでゴミをどこに捨てたらよいのか戸惑うことも多かった。時にゴミ箱を見つけても、分類回収スタイルで、日本人はきちんと分類して捨てていた。これが日本の美しい街並みの大きな理由であると思った。限られた時間の中で日本の全てを深く理解するのは難しいが、今回の訪問で多くの成果を得た。それを回りの人々に伝えると共に、私の携わるメディアを通し大衆に日本を理解してもらうよう情報を発信していきたい。

○ 今回の日本訪問で多くを学んだ。一番心に残っているのは文明的な日本社会、教養ある人々である。日本に到着すると間もなく、活動内容が網羅された手帳を渡された。一読すると、その内容の濃さ、詳細にわたる記載に驚いた。仕事に厳しく、細やかで、責任感が強い日本人に対する第一印象が残った。テレビ局の訪問で、24 時間生放送のため記者や編集者が夜勤で制作に当たっていることを知り、なんて一生懸命に職務に当たるのだろうと感嘆した。銀座の取材で、100 年の歴史ある老舗にお邪魔した。「『クールジャパン』を代表するのは何ですか？」と質問すると、「Made in Japan」と答えが返って来た。日本製品はデザイン、素材、技術のあらゆる面で日本文化と広く融合しているので、国内外の皆さんから愛されると説明して下さった。このことから、日本人は自国の文化を高く評価し、心から自信を持っていることが分かった。また迷路のように複雑な地下鉄の乗り換えで迷子になった時、2 人の青年が私たちを十数分も歩いて案内してくれた。言葉が通じず、会話は出来なかったが、私達が無事に駅構内に入るまで黙々と案内してくれた。日本人に対する新しい感覚が芽生えた。優しく友好的で文明的な日本人達が、私の日本に対するイメージをどんどん変えていったのだった。

○ 徳島新聞社を見学し、約 73 万人の人口の徳島県で 25 万部の発行量、カバー率 80%の数字は私の予想を超えるものだった。中国国内の従来メディアが厳しい岐路に立っている状況で、日本の新聞の影響力の大きさは素晴らしいと感じた。

新聞社での社員育成、社会活動、省エネ活動などは人々の生活に根差し、サービス性があり、楽しいばかりでなく、メディアが社会に負う責任を仕事によって表現していることに感動した。そして社会にさまざまな奉仕を行い、公益性と利益のバランスを取っていた。帰国後、日本テレビや徳島新聞社などメディア施設の訪問で得たことを中国の同僚に伝え、報告レポートとして残し、同業者の皆にも参考、学習してもらいたいと思う。

また警視庁交通管制センターの見学で、良好な交通秩序を維持するためには、完全なインフラ建設だけでなく、交通規則の執行と順守の気持ちが大切であることを深く学んだ。両国の技術的条件には大差がない中、教育や指導を更にレベルアップさせ、思考体系や方法を徹底し、交通状況の改善につなげていくべきであり、決して強制的な行政手段に頼らないことだ。

○ 日本の都市建築や衛生面は非常に優れていると聞いていたが、今回の訪問でその印象は更に深まった。また訪日前にはあまり興味を感じなかった日本人の秩序や時間を守る姿勢、謙虚で礼儀正しい面にも触れ、理解を深めた。

今回は「都市と地方」をテーマに活動を行い、日本の先進的な交通、進んだ農村、メデ

ィア運営方面などに関して理解と認識を深めた。東京は 50 年の時間をかけて現行の交通システムを構築し、物流や大量のデータベースなどを応用し、都市の交通渋滞を緩和してきた。また市民は積極的に公共交通を利用し、障害者にも優しい配慮がされており、多くの都市が学ぶべき点があった。日本テレビ、徳島新聞社の訪問を通し、日本最大の民営テレビ局、発行部数最多の地方新聞社の運営方法を見学し、同業者の方々の熱心な仕事ぶりも拝見し、大変啓発された。中国の同僚や上司に是非、伝えたいと思っている。

○ NPO 法人グリーンバレーの訪問が印象深く残っている。営利のためだけでなく、夢を追い、故郷を美しくするために頑張っている人々、彼らは一般人が想像もできないような困難を克服していた。人間の一生はそれぞれが異なり、誰もが困難にぶつかりながら頑張っている。彼らは生きる価値を見出しながら、世界を変えるために奔走していた。彼らの信念である「できない理由を考えるのではなく、困難を解決する方法を考える」には大きな感銘を受けた。今回、訪問した全ての場所、テレビ局、新聞社、政府部門、ガス会社など皆さんが自分の職場で惜しみない努力をしていた。日本は活力と希望にあふれた国であるに違いない。

【第 3 分団】

○ 日本の環境保全における成果は誰もが認めるところだ。こうした成果の背後には資金と財政支援、そして多くの時間が投じられており、そこから経験と技術が生まれた。その経験と技術を学ぶ中で、政府・民間・企業の協力協働の姿勢に大きな感銘を受けた。北九州市の関係者の講座で、環境保護関連の資金のほとんどが民間から寄せられ、なおかつ民間が旗振り役となって環境保護活動を推進していると知った。市民の環境保護に対する共鳴という基礎があるからこそ、一連の活動の実施が環境保護システムの構築につながり、目に見えぬ形で企業の査察効果が生まれている。都市の発展には、市民の社会に対する責任意識が必要不可欠であることを学んだ。

ではこうした意識は如何にして向上するのか。学校教育はその一部に過ぎない。今回見学した 2 つの企業はいずれも教育、市民の社会責任意識の向上に対する機能を果たしていたし、博物館も大きな貢献をしていた。また教育は机上で教えるのではなく、体験を通して点々が素晴らしい。一般市民、特に子供たちは体験参加を通して詳細を学んでいき、それが教育成果として現れる。結果を見ると、これは非常に効果的である。

○ 第 3 分団は「環境・省エネ」をテーマに、日本の努力と成果を視察した。(株)ユーズの TOKYO 油田 2017 視察では、「愚公山を移す」の故事を連想した。この会社は親子三代の努力の末、やっと今日の成果を築きあげた。特許取得プロジェクトの研究開発から、廃油回収、新規ディーゼル燃料使用への試みまで、世代をまたいで努力の賜物である。惜しむらくはこのプロジェクトがまだ広範に応用されておらず、更に幾つかの世代の努力によって偉大なプロジェクトは完成を見ることだろう。ここに日本人の粘り強い精神が現れている。九州はかつて深刻な汚染都市であり、工業化の黎明期この都市は死海と化した。しかし市民はこの都市を放棄せず、経験も基礎もない手探りの状態から、山や緑を取り戻すための模索を始めた。正に「愚公山を移す」であった。そして九州の人々は成功した。その対価

は大きかったが、それも財産であると思う。環境保全のために自主的に研究開発された各プロジェクトは、多くの国家や地域の環境問題の改善に福音をもたらした。決してあきらめない不屈の精神も財産だろう。真剣に取り組めば、必ずや結果が付いてくる。記者を生業にする私は、人々に日本が環境保護に費やした努力と成果を伝えていく。日本に対し、無私の心でその経験を発展途上国に提供してもらいたいと希望する。青い地球のために、人類の未来のために、共に努力していきたい。

○ メディアに携わる者として、今回最も関心があったのは、ニューメディアへの転換期における日本の見解や具体的な実践方法だった。TBS テレビ、西日本新聞などメディア関係者との交流を通し、日本では新しい潮流を追い求めたり、大々的にニューメディアの開拓に力を注いだりしているわけではなく、ある意味では我国より遅れているとさえ感じた。ニューメディアに固執しない背後には、日本メディアの新聞に対する強い情熱と、その価値を守り続けたい信念があると感じた。彼らは取材調査を愛し、真剣にニュースを書き、熱意をもって編集に当たっていた。潮流に踊らされず、自分の専門を貫くことは、新聞の価値を守ると同時に、明らかな経済的効果をも生み出した。こうした「最高の報道を読者に届ける」ための情熱と奮励に感動し、大いに啓発された。

滞在中もう一つ印象深いのは市民、企業の環境保護に対する認識と不断の努力である。「東京油田」の夢を追いつける染谷さん、「完全なる無添加の石鹸」を目指す企業家たちが、「地球をもっと美しく」の偉大な理想のもと、怯むことなく前進し自己責任を果たしながら、環境保護の種を世界に撒き続けていた。こうした一人一人の小さな努力が集積し、巨大なエネルギーと化し、今日の「環境立国」を標榜する日本があるのだろう。多種多様な環境保護活動を学び、世界の環境保護に比類なき貢献を果たす経験を得るため、海外からも多くの人々が集まっている。

○ 渋谷で行ったクールジャパンに関するインタビューで、ある日本人学生に出会った。彼女はリクルートスーツ姿で、これから企業面接に行くところだった。台湾での留学経験があり中国語が話せ、中国文化にも造詣があった。彼女はとても協力的で、自身のクールジャパンを紹介してくれた。中国や中国人に好印象を持つ彼女は、中国との交流に積極的だった。オープンな心で異なる地域の人を受け入れること、日本に来る外国人に心地よい体験をしてもらうこと、これがクールジャパンだと語っていた。彼女へのインタビューで日本国民への印象が更に深まった。ほとんどの日本人は中国に対して友好的だった。